

【テーマ】

「生成AIの業務活用 & 立命館大学のDX推進」

【主催】次世代情報システム検討分科会

活動報告

日時：2025年1月20日（月）14:00 -17:00

場所：Microsoft Base Ritsumeikan 立命館大学 大阪いばらきキャンパス
+ オンライン配信（Webex）（ハイブリッド開催）

出席者：105名

1. 研究内容

今年度最後の分科会は、全国の教育機関で初めて「Microsoft Base (※)」を設置（2024年4月）した立命館大学の大阪いばらきキャンパスで開催されました。

前半は九州大学の森木様より、業務での具体的な活用、学内利用拡大にむけてのサポート・課題などの事例をご講演いただきました。

後半は立命館大学の三宅様より、立命館大学様が取り組んでいる大学と社会をつなぐ共創プラットフォーム「TRY FIELD」に関してご講演をいただいた後、カコム株式会社の朝山様より「TRY FIELD」を実践する場「Microsoft Base Ritsumeikan」に関してご紹介をいただきました。ご講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、生成AIの業務活用やDX推進に関して理解を広げる場となりました。

（内容詳細については「3項 概要レポート」をご参照下さい。）

※「Microsoft Base」については、以下をご参照ください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/events/azurebase/>

2. スケジュール

14:00 分科会開始

○開会挨拶

○ご講演「生成AIサービス活用のノウハウとその先」

九州大学 IR室 学術推進専門員 森木 銀河 様

○質疑応答

○ご講演「TRY FIELD」

立命館大学 社会共創推進本部 本部長／教授 三宅 雅人 様

○ご講演「Microsoft Base Ritsumeikan」

カコム株式会社 グループ戦略統括本部 研究開発室 朝山 悟 様

○質疑応答

17:00 ○閉会挨拶

分科会終了

「先進事例に学ぶ！生成AIの業務活用＆立命館大学のDX推進」

2025年1月20日（月）、次世代情報システム検討分科会が、立命館大学大阪いばらきキャンパスの会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。会場は、2024年4月に日本の教育機関で初めて設置されたMicrosoft Baseである「Microsoft Base Ritsumeikan」です。前半は九州大学の森木様より、生成AIの業務での具体的な活用などについてご講演をいただきました。

後半は立命館大学の三宅様より、立命館大学様が取り組んでいる大学と社会をつなぐ共創プラットフォーム「TRY FIELD」に関してのご講演をいただき、その後にかコムス株式会社の朝山様より「TRY FIELD」を実践する場、当日の会場である「Microsoft Base Ritsumeikan」に関してのご紹介がありました。

摂南大学の玉瀬氏（次世代情報システム検討分科会運営委員）の司会で開会、同氏の挨拶の後、講演へ移りました。

■ご講演：

「生成AIサービス活用のノウハウとその先」 九州大学IR室 学術推進専門員 森木 銀河 様より

○大学で使う生成AIは、Microsoft Copilotがおすすめ

私は本業とは別に生成AIの研究をしており、自分でチャットボットを作ったり研修ワークショップを開いたりしています。今日の私の話を聞いて、「生成AIという選択肢もあるな」と思っただけならば幸いです。

生成AIの定義は様々ですが、一般に「文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルに基づくAIの総称」と言えるでしょう。「日本の首都は？」という入力に対して「東京都です」といった文章を生成します。Google検索と違うのは、今あるWebサイトを検索するのではなく、これまで学習した内容から「日本の首都は」に続く言葉を推測して生成しているところです。

ではどの生成AIを使えば良いのでしょうか。私は、機密情報を扱わない場合はまずGoogle AI StudioLLMとNotebookLMを、学内の機密情報等を入力する場合はChatGPTとMicrosoft Copilotを推奨しています。品質に問題があるようなら、Claude Pro等に課金したり、AIエンジニアを擁する企業に相談したりすることをお勧めします。興味がある人はDifyで内製開発してみるのも良いでしょう。それぞれの特徴をご紹介します。

●Microsoft Copilot

GPTを使用した対話型AIサービスで、教育機関が使用する場合、データは「商用データ保護」され二次利用されない規約になっています。

●Google AI StudioLLM

Developer向けコンソールで、最新のLLMを無料で試行可能です。

●NotebookLM

こちらもGoogleが提供するAIです。PDF資料、動画、Webサイト等の要約ができ、対話式でも使え、非常に便利です。

●Dify

オープンソースのLLMアプリ開発プラットフォーム。チャットボットやワークフローを作ることができます。

生成AIをうまく使うためには、プロンプト（指示文）が重要です。私が運営するWebサイトで、プロンプトのサンプルを無料で公開しておりますので、ぜひ参考にしてください。

[P4US...Prompt Guide for University Staff](#)

それではここから、Microsoft Copilotを例に、AIと付き合うためのノウハウをご紹介します。

1. いつの間にか更新されている

ユーザー用画面が頻繁に変更されます。URLが変わったりすることもあります。そういうものだと思って理解し、利用するのが近道です。

2. 「欲しい」生成物が出ないこともある

多くはプロンプトを工夫することで改善できます。AIのペルソナを指定したり、具体的な要件を提示したり、出力形式を指定したりして工夫しましょう。

3. プロンプトを書くのが大変

明確な指示を出すために、プロンプトを何分もかかって書いては本末転倒です。先ほどご紹介したWebサイトにも例がありますので、毎回一から書かずに流用して使えば省力化できます。また、24時間無料で使えるサービスですので、しっかりしたプロンプトを書いて出力させるだけでなく、気軽にAIに相談したり、励ましてもらったりする使い方も良いと思います。

4. 何に使えばいいかわからない

まずは使ってみて欲しいと思います。私は生成AIをクッキー作りに例えて説明することがあります。クッキー生地がAIモデルで、クッキー型がプロンプト。つまり、あなたがどの型を使うかで、できるクッキーの形（生成物）が変わるということです。先ほどご紹介したP4USには小テスト作成のためのプロンプト、要約のプロンプト等がありますので、参考にしてください。

5. 「プロンプト」たる指示の本質を理解する

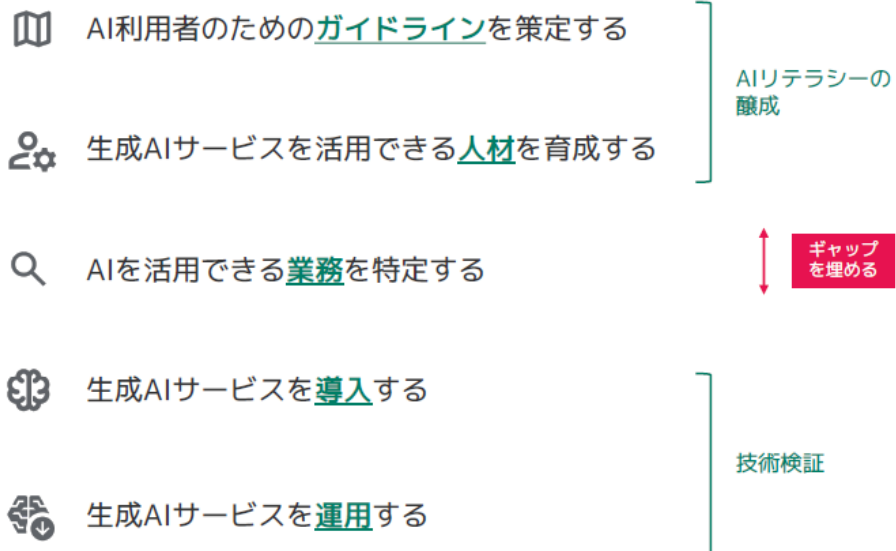
AIに文章を生成させる場合、AIは後続するテキストをパズルのように推測しています。ですから、「○○という挨拶で始まる告知文を作って」等の指示が有効です。しっかりとしたプロンプトを使って生成された文に、さらに情報を追加したり多言語に翻訳したりして、業務に活用すると良いでしょう。

6. 「対話型」たるデータ形態の本質を理解する

対話しながらより良い質問を引き出し、自分の考えを整理しながら本質的な回答を導くことができます。

生成AIの登場により社会は大きく変化していますが、組織内でのAI活用は必ずしも進んでいません。そのため、社会と組織のギャップを埋める橋渡し役として、AIを適切に活用できる人材育成が不可欠です。

生成AIを組織的に活用するための5要素



「生成AIが人間の仕事を奪う」という話もありますが、それよりも「生成AIを使っている人と使わない人の間で生産性に差が出てくる」と思います。AIを使うためには「検証力」が重要ですし、こういうことをやりたいという「欲望」を原動力にできるのも人間ならではの強みです。笑顔での応対や謝罪も人間ができる大切な仕事です。全ての教職員が生成AIの基本的な知識を理解し、使ってみることで、どの業務に活用できそうか、といった議論できるようになると考えます。

今年は一エージェント型のLLMがますます普及するでしょう。エージェントワークフローは、RPAのように複雑な処理も可能で生成物の精度も高いです。以前より簡単に使えるようになってきたため、注目しています。

ご講演：

「TRY FIELD」

立命館大学 社会共創推進本部 本部長／教授 三宅 雅人 様より

○文系・理系の学生と自治体・企業等が共創する、社会とつながるキャンパス

学校法人立命館は、学生・生徒・児童数約5万人の学校法人です。この大阪いばらきキャンパス（OIC）は、立命館大学の4つ目のキャンパスとして2015年にオープンしました。

学園ビジョン R2030 **挑戦をもっと自由に** **Challenge your mind Change our future**

学術ビジョン R2030 **R2030を實現する「構想」** **「構想」の先駆け OIC新展開**

ソーシャルコネクティッド・キャンパス構想

地球規模の課題や変化
国際情勢 気候変動環境
AI・IoT 少子高齢化

立命館の役割
社会共生価値の創造
イノベーション人材 創発性人材の輩出

リアルとバーチャルが融合するクリエイティブなキャンパスにおいて、社会課題解決を通してイノベーションの創出を実現するとともに、地域共創の場の形成を推進する。

OIC新展開がめざす姿 **デジタルで加速する挑戦の渦** **TRY FIELD**

RITSUMEIKAN UNIVERSITY **Futurize. きみの意志が、未来。**

2024年度に映像学部、情報理工学部がOICへ移転し、当初からある経営学部等と合わせて文理の学部が揃うキャンパスとなりました。いま皆さんがいる新棟（H棟）を設計する前に学校法人立命館は、「学園ビジョンR2030」を発表しています。それに基づき、「大学は新しい価値を生み出し、社会に貢献する役割があり、その新しい価値を創造できる人材を育成することが求められている」と定めました。これを達成するために、「ソーシャルコネクティッドキャンパス構想」を掲げて、社会とつながるキャンパスづくりを目指しています。H棟ではこの構想の一環として学生が様々な体験や挑戦を行える環境を整備。「TRY FIELD」というコンセプトで設計され、その中核となる取り組みの一つが、日本の教育機関内に初めて設置され利用者のDX実現やスタートアップ等の支援を行うMicrosoft Base Ritsumeikanです。

H棟には1階から4階が映像学部、5階から9階が情報理工学部の研究施設が入っていますが、1階の一部は、「クリエイティブ・コンプレックス」として、本学の学生だけでなく、他大学の学生、地域住民、地元企業の方等が自由に使えるスペースです。例えば1階には、大阪府と茨木市のサテライトオフィスにもなっている「社会共創デスク」があり、学生と一緒に自治体のイベントを考えたり、府や市の職員と会話できる交流の場などを設けています。他にも350インチ大型LEDビジョンが設置されさまざまなイベントやワークショップが行われる「TERRACE GATE」、多様な最新の研究を間近で見て体験できる「SP LAB」などがあります。

組織としては、社会共創推進本部を立ち上げました。このH棟の4階にあり、企業や大学と一緒にプロジェクトをする際に利用でき、社会と繋がり課題を解決する場「Co-Creation Hub with Ritsumeikan」を設けています。

キャンパスでは、警備ロボット、お掃除ロボット、配送ロボット、ドローン等と遭遇することがあるかもしれません。例えば配送ロボットは、コーヒーや弁当の配送に使われています。キャンパス全体を実証実験の場としても位置付けています。

以上のように、訪れるすべての人がTRYを感じ、TRYできる「場」を用意しています。

■ご講演：

「Microsoft Base Ritsumeikan」

カコム株式会社 グループ戦略統括本部 研究開発室 朝山 悟 様

○学生と教職員、企業、自治体の共創を推進するDX人材育成拠点

Microsoft Baseは国内27カ所ありますが、教学施設の中に設置されたのは、こちらが初めてになります。実際の運営は、弊社 カコム株式会社が行っています。TRY FIELDのコンセプトの中に「ここでの日々や、試行錯誤は未来へとつながり、ここで生み出された創造は時空を超え、自分を形作るタネとなる」という文があるのですが、これを体現した施設だと思えます。

DX人材育成拠点_Microsoft Base Ritsumeikanの設置



Microsoft Base Ritsumeikan

学生向け	社会人・地域向け
企業・自治体向け	教職員向け

専属スタッフ 常駐

日本マイクロソフト ▶ 多様なノウハウ・ネットワーク等の提供

教育機関で唯一となる
Microsoft Base Ritsumeikanだからできること

①大学の教育・研究、知的資源との連携

スムーズな産学連携、地域社会との多様な接点



②学生(OIC約1万人他)とのコラボレーション

社会経験を間近で提供、起業へのチャレンジを後押し



③社会共創キャンパスでの展開

社会課題解決にむけた社会の多様なプレイヤーが集まる(地域、企業、自治体等) 挑戦拠点。最先進事例を踏まえた各領域での幅広い融合



学生 X 教員 X 企業 X自治体 = ∞

Microsoft Base Ritsumeikanの活用方法は大きく3つ。ワークスペースの活用、個別相談、イベント参加です。全国のMicrosoft Baseは有償のところが多いですが、ここは一部のセミナーを除き無償です。スタッフは平日の10時から18時に常駐。スタッフのいない土日祝や平日の夜(22時まで)も利用可能です。個別相談は予約が必要です。今月よりオンラインでの相談も可能となりました。セミナーは、オンラインやハイブリッド形式もありますので、ぜひご覧ください。

[Microsoft Base Ritsumeikanイベントカレンダー](#)

Microsoft公式認定資格(MCP)であるAZ-900の取得の取り組みをご紹介します。学生が就職活動で有利になれるように伴走型資格支援活動を実施しております。オリエンテーションを受講頂き、仮試験に合格すると書籍をプレゼント、Microsoft認定講師によるe-Learningを提供します。模擬試験に合格すると受験費用に使えるバウチャーチケットをプレゼントします。書籍やバウチャーの費用に関しては、立命館大学様にご協力いただいています。横展開も検討しておりますので、ご興味のある方はお声がけください。

Microsoft Base Ritsumeikanにご相談いただいた中には、日々の業務で利用されるMicrosoft Teamsなどを社員に向けた利活用方法を全社員向けに研修をお願いしたいというお話もありました。弊社の教育担当とご協力して対応させて頂いた実績もございます。幅広く柔軟に対応させて頂いております。

○Q&A

Q: AZ-900取得のための伴走支援は、学生のみが対象ですか。

A: 現在は学生のみですが、要望があれば教職員向けも検討します。Microsoft Base Ritsumeikan設立当初は、ExcelやWord等、マイクロソフト製品の相談が多いのかと思っていましたが、実際は起業やDXの相談が多く、文系の学生さんからマーケティングや資金調達の相談をされることもあります。ですから、より戻しのようにマイクロソフト製品について学ぶということで、資格取得伴走制度を立ち上げました。

Q: 利用者の割合はどうなっていますか。

A: 学生が一番多く、次が教職員、最後に企業です。今後はオンライン相談も始まるので、企業が増えると良いなと思っています。メタバースでの展開も準備中です。また自治体の利用としては、常駐している大阪府、茨木市の方からいただいた課題を授業に組み込んだり、府庁のデジタル化について相談に乗ったりしています。

■閉会：

結びに、京都産業大学の大島氏（次世代情報システム検討分科会運営委員長）より「本日はありがとうございました。大変参考になりました。今年度の次世代情報システム検討分科会は今回で終了となりますが、来年度も引き続き生成AIや新技術をテーマとして取り上げていきたいと考えています。」と閉会の挨拶がありました

【 分 科 会 の 様 子 】



4. 参加校 [27校48名] ・参加企業[11社57名] ・参加総数[105名]

大阪経済大学 [2] 大阪工業大学 [1] 大阪公立大学大学院 [1] 学校法人常翔学園 [1] 関西国際大学 [2] 九州大学 [1] 京都産業大学 [1] 神戸学院大学 [3] 芝浦工業大学 [1]	順天堂大学 [1] 城西大学 [1] 成蹊大学 [1] 摂南大学 [1] 帝京大学 [3] 東海大学 [3] 東京都市大学 [1] 東京理科大学 [1] 東洋学園大学 [8]	東洋大学 [3] 長野県立大学 [1] 奈良先端科学技術大学院大学 [2] 福岡大学 [2] 明治大学 [2] 名城大学 [1] 立正大学 [1] 立命館大学 [2] 流通科学大学 [1]	カコムス株式会社 [1] 株式会社キャリアス [3] 株式会社TOKAIコミュニケーションズ [1] ダイロン株式会社 [1] チエル株式会社 [1] 電子システム株式会社 [2] 東京コンピュータサービス株式会社 [4] 富士電機ITソリューション株式会社 [2] ミツイワ株式会社 [2] 有限会社ハーティサービス [1] 富士通Japan株式会社 [39]
---	---	--	---

5. 所感（次世代情報システム検討分科会）

今回の分科会は、立命館大学いばらきキャンパスの「Microsoft Base Ritsumeikan」をお借りし、ハイブリッド形式で開催いたしましたが、大変多くの方にご参加いただき、関心の高さが窺えました。

最初に、九州大学の森木様より「生成AIサービス活用のノウハウとその先」と題した講演をいただきました。森木様は、AIを活用するための考え方や組織としてのAI活用の普及方法、AIを活用できる人材の意義や役割についてお話しされ、2025年にはAIエージェントがさらに進化すると展望も示されました。

次に、立命館大学の三宅様から「TRY FIELD」として社会共創事業のご紹介をいただき、続いて、株式会社カコムス様から「Microsoft Base Ritsumeikan」の運営についてお話しいただきました。「Microsoft Base Ritsumeikan」は学生の資格試験支援やワークスペースの提供だけでなく、他大学や企業、自治体の課題解決を目指す場として活用されていることや、運営にあたっては研究の意味合いもあり、立命館大学からの費用援助は受けていないが、個別相談やイベントは無料で実施し、他大学や企業の方々の参加を促すことで、新しい共創の場の拡大を図りたいとのこと、イベントサイトのご案内もいただきました。

最後になりましたが、会場提供とご講演、そしてH棟施設見学もさせていただいた立命館大学様に感謝申し上げます。

【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。また、今回の分科会開催に際し事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

◆「CS研・IS研情報交換サイト」について

CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様が情報交換をする会員専用のサイトです。

（サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

情報交換サイトURL：

<https://csis.ufinity.jp/shared>

※利用アカウント申し込みサイトURL：

<https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/102857>

【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

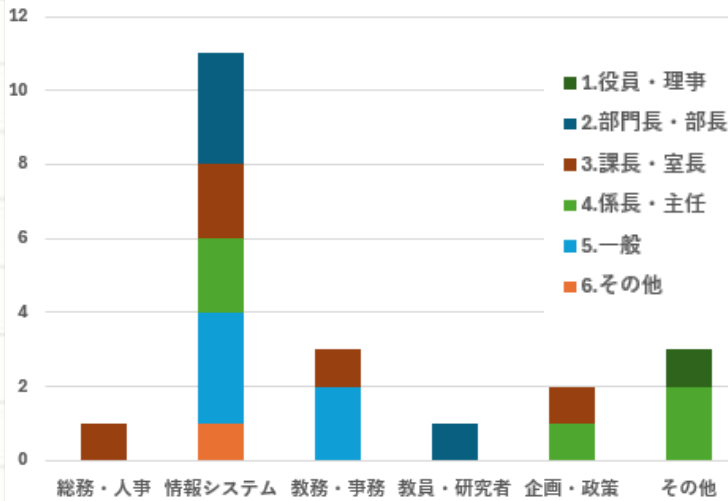
〒 212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー

富士通Japan株式会社 P&Eビジネス戦略室内

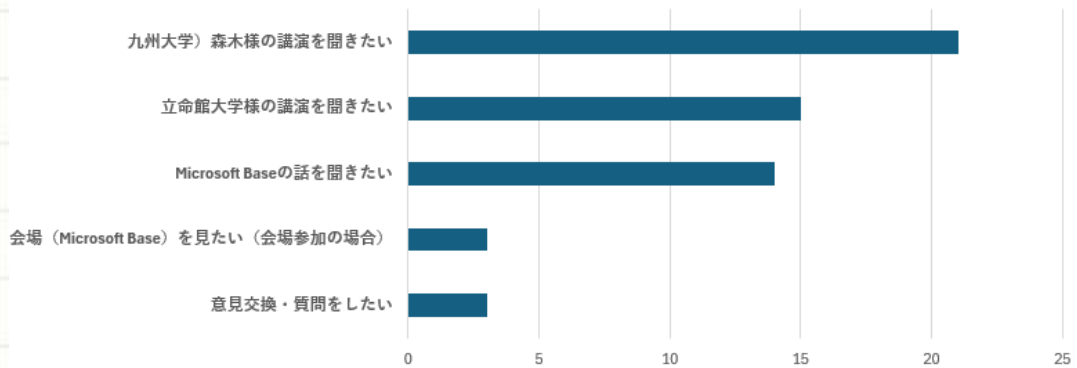
E-mail：contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：23／48（大学関係者のみ）】

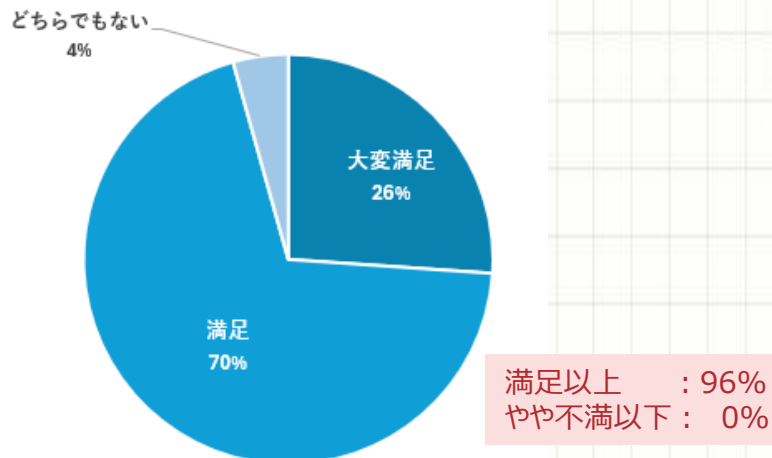
■ 担当業務と役職について



■ 参加した目的について



■ 本日の分科会の全体満足度について



■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

【評価が「大変満足・満足」の方のコメント】

- AIの新たな動向を確認出来た
- AIツールの具体的な利用方法と、AIツールの変遷についてチャットのような機能から進化しているところについての説明がわかりやすかった。
- 生成AIの各種サービスの違いなどを聞くことができたため。
- 単なる生成AIの使い方だけではなく、これから大学として生成AIの活用やDXを推進していくために、どのような組織や設備が必要で、様々なステークホルダーを巻き込み、それをどのように活かし、大学として何を実現しようとしているのかが良くわかりました。
- どちらも最先端の情報を非常に興味深いものでした。
- 生成AIとのかかわり方、立命館大学様とMS Baseの話の具体的な話を聞くことができたため
- 具体例がありとてもわかりやすかった
- 森木様の講演や質疑応答など、各大学の生成AIの取組みなど伺えたので参考になりました。
- 立命館さんとカコムスさんのお話が大変興味深かったです。
- MS Baseはとても魅力的な取組みでした。
- 大学内で生成AIを構築するにあたり、どういった利用ができるのか、構築にあたる人件費、ライセンス費など細かなところが伺えると良かったです。
- まだまだ利用促進という面で、取組み方法や展開方法など知識不足もあり、推進するには難しい印象です。
- 今後の取組みや課題などを共有いただける場があると嬉しいです。
- 立命館の施設見学は今後したいと思います。

【評価が「どちらでもない」方のコメント】

- 多様なAIのお話を聞いたのはよかったが具体的にどのような活用を自大学ですればいいのかまでイメージしきれなかった

■今後、CS研で実施してほしいイベントやテーマについて（一部省略・抜粋）

- 学生の生成AIへの正しいかかわり方について
- 管理部門にも活用できるテーマを実施してほしい。教務管理システムでも、管理部門との連携に役立つ情報など。
- 引き続きAI活用について、様々な面からのアプローチと事例紹介をお願いします。
- 学生の個別教育に生かされるAIを活用する手法等

■CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 本日、最初の音声が届きませんでした。また、講演者の肝心なところで音声途切れるなど、聞き取れないところがありました。
- 他大学の取組等も知れ、有益な時間でした。有難うございました。今後も宜しくお願い致します。